

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 10年4月 ～失業率は2ヵ月連続で上昇

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

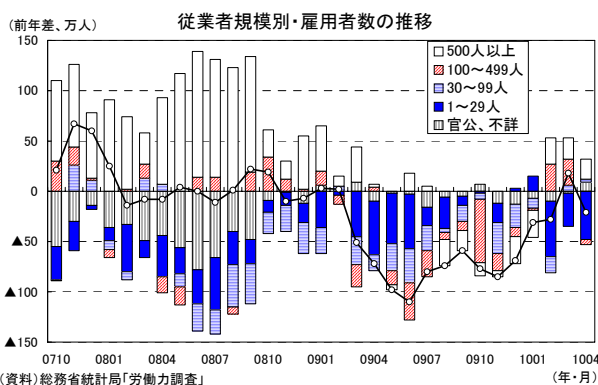
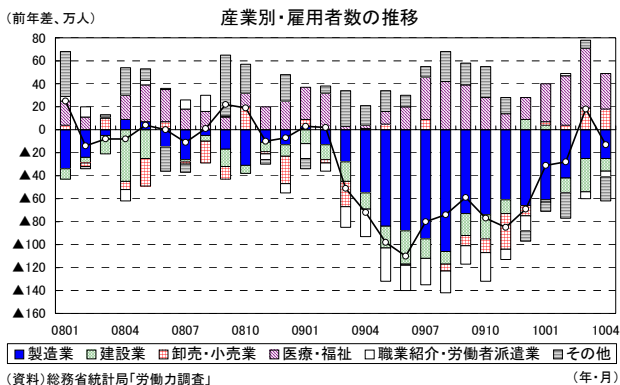
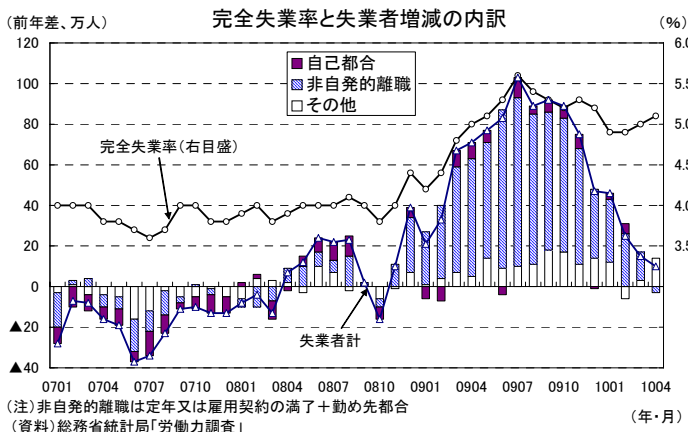
1. 失業率は2ヵ月連続で悪化し5.1%に

総務省が5月28日に公表した労働力調査によると、4月の完全失業率は前月から0.1ポイント上昇し5.1%となった（ロイター集計事前予想：5.0%、当社予想も5.0%）。

3月に1年1ヵ月ぶりに増加に転じた雇用者数は前年比▲0.2%と再び減少に転じた（3月は同0.3%）。

失業者数は356万人となり18ヵ月連続で前年よりも増加したが、増加幅は10万人とピーク時（09年7月の103万人増）に比べると大きく縮小している。季節調整値でみた失業者数は339万人となり前月よりも8万人増加した。

失業者の内訳を求職理由別に見ると、非自発的な離職による者が前年に比べ3万人の減少（うち勤め先都合が7万人減）、自己都合による者が1万人の減少、学卒未就職者が1万人の増加、その他が12万人の増加となった。極めて厳しい新卒採用市場を受けて学卒者の失業増が懸念されていたが、学卒未就職者の増加は限定的にとどまった（3月は5万人増）。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、製造業の雇用者数は前年に比べ▲25万人の減少と15ヵ月連

続で減少した。減少幅はピーク時（09年8月の▲106万人減）に比べると大きく縮小しているが、鉱工業生産の水準が依然としてピーク時の8割強にとどまっているため、製造業の雇用が増加に転じるまでにはまだ時間がかかるだろう。

医療・福祉は前年に比べ31万人増と引き続き雇用を下支えしているが、増加幅は3月の52万人増から大きく縮小した。

従業員規模別には、500人以上の大企業は3ヵ月連続で増加したが、1～29人の中小企業の雇用者数は3ヵ月連続で大幅な減少となった（3月：54万人減、4月：32万人減、5月：41万人減）。

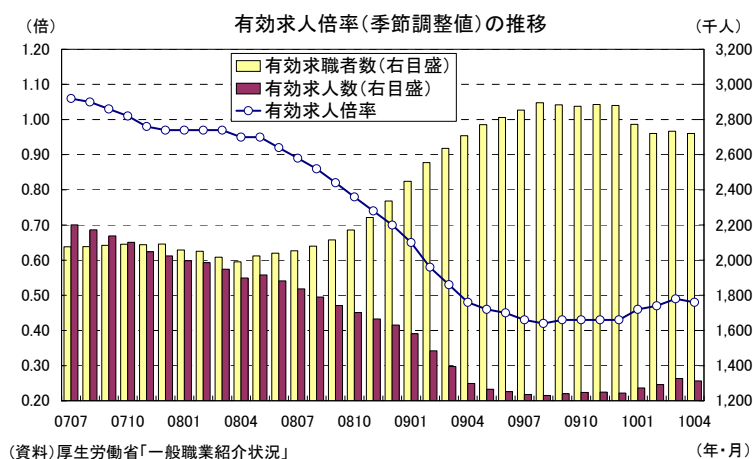
2. 有効求人倍率は8ヵ月ぶりに悪化

厚生労働省が5月28日に公表した一般職業紹介状況によると、2月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント低下し0.48倍となった（ロイター集計事前予想：0.50倍、当社予想も0.50倍）。

有効求人数（前月比▲1.0%）、有効求職者数（前月比▲0.5%）ともに減少したが、有効求人数の減少幅のほうが大きかったため、有効求人倍率は09年8月以来8ヵ月ぶりに悪化した。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は0.88倍（3月：0.84倍）と前月よりも改善しているため、このまま労働需給の悪化が続くリスクは低いだろう。ただし、新規求人倍率改善の主因は新規求職申込件数が前月比▲3.1%と大幅に減少したことである。新規求人数は前月比0.9%と低い伸びにとどまっており、企業の採用意欲が引き続き弱いことを示している。

雇用情勢の持ち直し傾向は先行きも継続するとみられるが、そのペースは非常に緩やかなものにとどまると考えられる。失業率は当面は5%前後での推移が続く可能性が高いだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。